

### 3.11 メッセージ

原発事故から7年。全国の心ある皆様に激励と物心両面でお世話様になりました。皆さまの暖かい言葉が励ましとなって避難生活に耐える事が出来ました。厚く御礼申し上げます。

思い起こせば事故当時放射能から少しでも逃れようと必死でした。避難では、自分の身を捨ててまで子どもを守ろうとする子どもを抱えた親の姿が思い出されます。目に見えない、匂いもしない、恐怖の日々が続きました。転校から転校で10回以上の経験してしまった子もいます。その中には言葉の違いからいじめ、登校拒否、うつ病等々がありました。耐え切れなく自死してしまった子もいます。若い酪農家は「原発さえなければ」「仕事をやる気力をなくした」と牛舎の壁に記して自殺、一時帰宅した高齢者が絶望して自死、避難先での孤独死など、犠牲者が多くありました。

農業を再開したくても、農地そのものが放射能で汚染されていますから幾ら除染しても元には戻らない事が明らかになってきました。例えば米や野菜を作っても誰が買うでしょうか、食べるでしょうか、減収減益の分は国が責任を持つと言うがそんなことが続くわけありません。被害者の泣き寝入りになってしまうことが明らかです。

原発事故は全ての財産を奪い、親類、家族、地域コミュニティまでズタズタしてしまい二度と元に戻る事はありません。これが原発事故による放射能公害の実態である事が7年の避難生活で明らかになりました。

このようなことを二度と繰り返してはならない。繰り返させてはなりません。国と電力会社は福島原発事故の反省もなく再稼働を強引に進めています。こんな事は絶対に許してはなりません。

原発事故による放射能公害は100年賠償でなければならないと思います。なぜなら最も危険な放射能セシウム137だけでも「100年で10分の1」、「200年で100分の1」、「300年で1000分に1」になるだけだからです。これから20年後30年後に現在の子どもたち後世に何がおきるか分かりません。私たちには後世を守る責任があります。一部の金儲けのために私たちの税金を使い生きる望みまで奪い、ぬくぬくと生きている電力資本と自民党は道義的にも許される事ではありません。

誠意ある皆様方と原発のない国にし、世界に誇れる平和憲法を守り後世に引き継ぎましょう。

2018年3月11日

原発被害者相双の会

國分富夫